

2024年7-9月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和6年11月15日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2024年7-9月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.2%（年率0.9%）と2四半期連続のプラス成長となった。名目は0.5%（年率2.1%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.6%と2四半期連続のプラス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は0.4%と3四半期連続のマイナス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質0.9%増と2四半期連続の増加となった。自動車、携帯電話機、飲食料品等が増加に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質0.1%と2四半期ぶりの減少となった。

民間企業設備については、実質0.2%と2四半期ぶりの減少となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、プラントエンジニアリング等への支出が減少したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.1%となった。実質の在庫残高が2024年4-6月期から7-9月期にかけて増加幅を拡大したことから（2024年4-6月期1.5兆円、7-9月期2.0兆円）、その変化分（0.6兆円）がGDP成長率に対してプラスに寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.5% 増と 3 四半期連続の増加となった。医療費等が増加に寄与したとみられる。

公的固定資本形成については、実質 0.9% と 2 四半期ぶりの減少となった。

公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0% となった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 0.4% 増と 2 四半期連続の増加となった。金属製品等が増加に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 2.1% 増と 2 四半期連続の増加となった。医薬品や携帯電話機等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 0.3% となった。国内需要デフレーターは前期比 0.2% となった。外需デフレーターはプラスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、2.5% となった。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2024 年 7 - 9 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 0.4% (年率 1.5%) と 2 四半期連続のプラスとなった³。海外からの実質純所得 (寄与度 0.1%)、交易利得 (寄与度 0.1%) とともにプラス寄与となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 0.6% (年率 2.5%) となった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2024 年 7 - 9 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 3.6% 増、季節調整済前期比で 0.4% 増となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数がともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で 0.9% 増、季節調整済前期比で 0.0% 増となった⁵。

(以上)

³ 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 (除く持ち家の帰属家賃及び FISIM) デフレーターで除して算出した参考値。